

## ガスプロムと CNPC、ガス契約合意に向けて一歩前進

一般財団法人 日本エネルギー経済研究所  
常務理事 首席研究員  
小山 堅

9 月 5 日、G20 サミットが開催されているロシア・サンクトペテルブルグにおいて、ロシア・ガスプロムと中国・CNPC の両社が、長期に亘って懸案となってきた両国間のパイプラインによるガス契約問題に関して、取引数量、取引開始時期、東シベリアから中国に至る東方ルートを採用、デリバリー・ポイント等の主要な条件に関して法的拘束力を持つ合意に達した、と発表した。

合意文書の署名は、プーチン大統領と習近平国家主席の臨席の下で行われ、この合意が両国間の戦略的関係強化にとって重要な意味を持つということを示し、かつ両国首脳がこの合意を祝していることも明確に示す形となった。

今回の合意に先立って、ガスプロムと CNPC は、今年の 3 月にガスの売買契約量は年間 380 億立米 (LNG 換算約 2800 万トン)、供給開始年は 2018 年、とする覚書に署名していた (なお、契約数量については、将来、年間 600 億立米まで拡大する可能性も含めている)。

今回の G20 の場における両社の新たな合意は、10 年以上の長きに亘る「マラソン交渉」の最終的な妥結・合意に向けた一歩前進と見ることが出来るだろう。ガスプロムのミレル社長はこの点について、「基本条件に関する合意が G20 の場で行われたことは、両国が 2013 年末までに交渉を成功裏にまとめ、契約に署名することを目指していることを示している」、と述べたとされている。

確かに「一歩前進」であることは間違いないが、それでも、まだ最終合意に辿り着くためには、大きな課題が残っている。それは、もちろん、価格面での合意である。そもそも、なぜ「マラソン交渉」にならざるを得なかったのか、その最大の原因は価格面での条件に全く折り合いが付かなかったから、と言って良い。

ロシアは、欧州向け輸出価格とのバランス、中国向け輸出のためのパイプライン建設や上流開発なども含めた必要コスト等を勘案し、価格条件を提示せざるを得ない状況にあり、他方、中国は、国産ガス開発を最優先し、トルクメニスタンやミャンマーからのパイプラインガス供給を確保、さらには LNG 調達拡大も図る中で、燃料として競争力を持つ国内炭との競合という観点もあり、低価格での調達確保という姿勢を固持してきた。

その点で、両社の歩み寄りは一歩も進まず困難であった。その基本的な構図そのものは現時点で大きく変わっていないだけに、予定されている本年末における最終合意に向けては、ま

だ厳しい交渉が予想される。ちなみに、今回の合意に際して、ガスパロム側は、CNPC が最近になって要求しはじめた価格決定方式における米国ヘンリー・ハブ価格要素の採用について、受け入れないと述べている。価格条件の合意についてはまだまだ紆余曲折があり、予断は許されないと見るべきであろう。

ただし、上述の「基本的な構図」は変わっていないものの、注目すべき状況の変化や底流となる新情勢等の動きもある。

第 1 に、今回の合意がロシアが主催する G20 の場で発表されたということがある。スノーデン問題やシリアへの軍事介入への対応を巡って、米国との摩擦を強めるロシアにとって、アジア太平洋地域での戦略的關係で米国との間合いを計る中国と連携を強めるメッセージを打ち出すことはエネルギー問題だけに留まらず、国際關係や地政学的な観点でも重要、という判断があったのではないか。米・中・ロを巡る基本構造が大きく変わらない限り、中ロ間の關係強化を図るモメンタムが一定程度維持される可能性がある。

第 2 に、ロシアにとって、エネルギー對外戦力を巡る状況は相変わらず厳しく、むしろ厳しさが増している、という面があることに留意する必要がある。石油・ガス部門とその輸出に国家經濟が大きく依存するロシア、しかもその輸出収入の面での欧州依存が極めて高いという点が、現在のロシアの決定的な弱点となっている。信用危機で悪化した經濟状況や石炭や再生可能エネルギーとの競合で欧州の天然ガス市場（需要）規模が縮小している現在、ロシアとしては打開策として、輸出先の多様化のため、アジア市場開拓を目指す「東方政策」を強めるしかない。巨大市場である中国との契約妥結は、中国側との厳しい交渉を経なければならぬものの、合意に向けた進捗があれば、主要目的である輸出の多様化実現に資するだけでなく、欧州市場への牽制にもなる。また、アジア市場についても、中国との交渉進展（というシグナル）は、日本や韓国など、他の主要アジア輸入国との交渉においても、牽制球の意味を持ちうると思われる。

第 3 に、企業としてのガスパロムとしては、ガス輸出に関する独占的立場を確保してきたものの、本年になって、ロスネフチやノヴァテックなどの「新プレイヤー」によるガス（LNG）輸出に関する挑戦を受けるようになってきている。その面で、独占的なガス輸出権を有するガスパロムとして、対アジア政策で、一步でも二歩でも前進している状況を作り出すことに意義を見出すのではないか。

第 4 に、中国側では、CNPC が同日、ノヴァテックが主導するヤマル LNG プロジェクトに 20%参加することに正式合意したことを発表するなど、最近になって天然ガス購入戦略を巡る新たな積極的展開とも見られる動きが注目される。

目標とされる本年末までの最終合意に向けて、ガスパロムと CNPC がどのような駆け引きを展開するか、今後の展開に世界の注目が集まることになろう。とりわけ、CNPC 側が現状ではそれほど大きく妥協する必要性を見出す可能性があまり高くないだけに、ガスパロム側の戦略と意思決定に大いに注目すべきであろう。

以上